



先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/04/01

日本の追加緩和観測も重要な要因に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日米の金融政策の思惑が軸 予想レンジ: 100.500 ~ 105.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	リスク・オンの準備OK 予想レンジ: 91.500~96.200円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



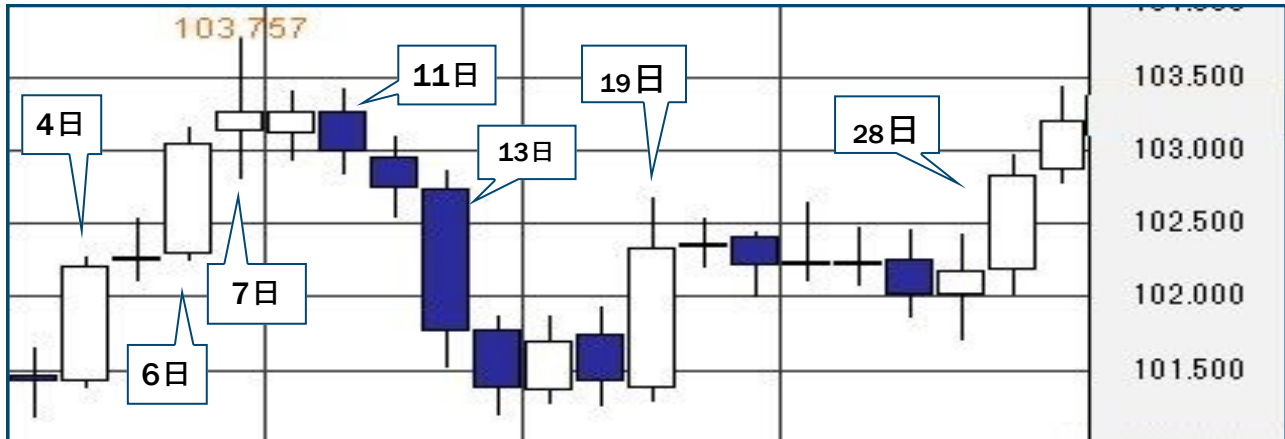
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	101.472円	103.757円	101.200円	103.208円



4日	プーチン露大統領が(ウクライナ国境付近で)軍事演習中の部隊に基地への帰還を指示したと報じられるとドル/円は上昇。さらに、同大統領が記者会見で「まだ、ウクライナに軍隊を送る必要はない」「ロシアがウクライナに軍を派遣するのは極端なケースのみ」などと述べたことを受けて主要国株価や米長期金利がジリジリと上昇したことから、ドル/円は102.282円まで上げ幅を拡大した。
6日	「公的年金の財政検証で厚生労働省は『年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)に国内債中心の運用を求めない』との草案を出した」との報道を受けてドル/円は上昇。さらに、欧州中銀(ECB)が市場の事前期待に反して追加緩和策を打ち出さずユーロ/円が急騰すると、ドル/円も一段高となった。
7日	米2月雇用統計は失業率が6.7%(予想:6.6%)となるも、非農業部門雇用者数が17.5万人増と予想(14.9万人増)を上回り、前月分は11.3万人増→12.9万人増に上方修正された事が好感され、ドル/円は103.757円まで急騰。ただし「米海軍ミサイル駆逐艦がボスポラス海峡を通過し、黒海で合同演習に参加」と報道されると、NYダウ平均株価が一時マイナス圏に転じ、ドル/円は上げ幅を縮めた。
11日	日銀が金融政策の据え置きを決定。声明文も輸出の景気判断の下方修正および、設備投資の景気判断の上方修正程度に留まったことを受けて、ドル/円は軟化した。その後、中国の景気減速懸念が強く意識される中で商品価格やNYダウ平均が下落すると、ドル/円は103円を割り込んだ。
13日	ケリー米 국무長官が「クリミアで住民投票が行われれば、欧米は17日にもロシアに対して重大な措置を講じる」と述べると、米露関係の緊迫化を嫌気してリスク回避ムードが強まり、ドル/円は下落。その後も「クリミア北部のウクライナ国境付近を飛行中の航空機がロシア側と思われる武装車両から射撃された」「ウクライナ東部ドネツクで親ロシア派と親ウクライナ派が対立し、4000人規模の衝突があった」などの報道を受けて一段安となった。
19日	米連邦公開市場委員会(FOMC)は政策金利据え置きと、量的緩和(QE)の規模を100億ドル減少させ、550億ドルとすると発表した。市場予想通りの決定だったが、フォワードガイダンスにおける、政策金利を低水準に押さえる目安であった「失業率が6.5%を上回っている限り」との文言を削除した他、経済・金利見通しにおいて政策金利の2015年末の水準を1%とみる予想が最多であったことなどから、利上げ時期の前倒し観測が浮上するとドル高が進行。さらに、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が「今秋にQEが終了となる可能性が高い」「QE終了から利上げ開始まで、相当な期間を予想」「相当な期間とは、およそ6カ月を指す」と述べたことで早期利上げ期待が強まると、米長期金利が一段と上昇。ドル/円は102.676円まで値を伸ばした。
28日	中国の李首相が26日時点で景気支援策の可能性を示唆していたことが報じられたことなどを受けてNYダウ平均が上昇すると、ドル/円も上昇した。

USD / JPY

今月のポイント

3月のドル/円相場は101.200～103.757円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(ドル高・円安)となった。

ドル/円は月初はウクライナ情勢への不安後退や米雇用統計の強めの結果を受けて103.70円台まで上昇したものの、その後、クリミアの独立・ロシア編入でウクライナ情勢に再び暗雲が拡がったことから反落。ただ、米国の早期利上げ観測が台頭するとドルが反発。月末には株高などを背景に103円台を回復するなど、月間を通して見ると、101円台前半から103円台のレンジでの往来となった。

4月については、日本では2度の金融政策決定会合、米国でも連邦公開市場委員会(FOMC)が開催される予定だ。ただ、双方ともに金融政策は据え置きの見通しで、注目ポイントは声明、そして日銀総裁および米連邦準備理事会(FRB)議長の記者会見の内容になる。焦点は、日本の場合は追加緩和の可能性や内容、米国の場合は前月に台頭した量的緩和(QE)縮小終了後の利上げ時期の思惑になる。前者の場合、消費税の引き上げを受けて日本株を圧迫するような流れになれば、追加緩和期待が拡がりやすく、会合前には思惑的な円売りなども出てくると見られる。一方、米国については、FOMCが月末のため、それまで経済指標を一つ一つ確認していく流れになるだろう。

なお、大きく反応することは少なくなりつつあるが、波乱要因として引き続きウクライナ情勢についても気を配っておきたい。西側諸国とロシアの関係の悪化を連想させる報道があれば、リスク回避ムードが拡がるきっかけとなり、ドル/円には下押し圧力を掛けるだろう。(石川)

(予想レンジ: 100.500～105.000円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

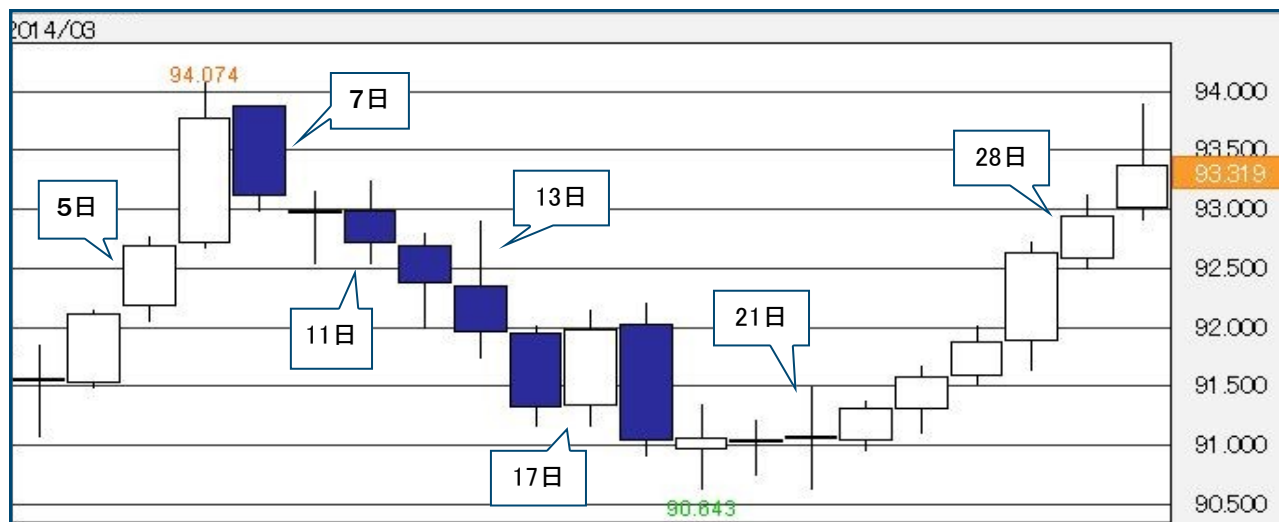
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(火)	日銀短観	4/15(火)	3月米消費者物価指数
	3月米ISM製造業景況指数	4/16(水)	1-3月期中国GDP
4/2(水)	3月米ADP全国雇用者数		3月米鉱工業生産
4/3(木)	3月米ISM非製造業景況指数	4/17(木)	4月米フィラデルフィア連銀景況指数
	2月米貿易収支	4/21(月)	3月日本通関ベース貿易収支
4/4(金)	3月米雇用統計	4/23(水)	3月米新築住宅販売件数
4/8(火)	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	4/24(木)	3月米耐久財受注
	2月日本経常収支・貿易収支	4/25(金)	3月日本消費者物価指数
4/9(水)	米FOMC議事録(3月18・19日)	4/29(火)	4月米消費者信頼感指数
4/10(木)	2月日本機械受注	4/30(水)	日銀金融政策決定会合
4/11(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月10日・11日分)		第1四半期米GDP・速報値
	4月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		4月米シカゴ購買部協会景気指数
4/14(月)	3月米小売売上高		米FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD / JPY

カナダ/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	91.572円	94.074円	90.643円	93.374円



5日	カナダ中銀(BOC)は、予想通りに政策金利を1.0%に据え置いた。声明では「インフレは当面、目標を大きく下回り続けると予想されるため、インフレに対する下方リスクは引き続き重要事項となる」と1月と同様の見解を示した一方、カナダドル安による経済への好影響に関する文言が削除された。市場は、この声明をハト派色後退と受け止め、カナダドル買いが活発化した。
7日	加2月雇用統計は失業率こそ予想通りの7.0%となったものの、雇用者数が前月比0.7万人減と予想(1.50万人増)に反して減少した。これを受けてカナダドル売りが優勢となった上に、「米海軍の誘導ミサイル駆逐艦が黒海に向かっている」との報道を受けて堅調に推移していたNYダウ平均が一時マイナス圏に沈んだ事も重石となり、93円を割り込んだ。
11日	中国企業の債務不履行(デフォルト)や中国経済の失速懸念から銅先物相場が急落(中国は世界最大の銅消費国であるとともに投機的取引も多い)すると、米国株や原油価格も下落。リスク回避の動きが強まる中、資源国通貨への売り圧力が大きく92.50円台まで値を下げた。
13日	メルケル独首相が「ウクライナ問題でロシアが軌道修正しなければ、甚大な政治的・経済的損害を被る恐れがある」と述べたのに続き、ケリー米國務長官が「クリミア自治共和国でロシア編入の是非を問う住民投票が予定通り(16日に)実施されれば『一連の重大な措置』を発動させる」などと発言した。これらを受けて、欧米とロシアの対立激化への懸念が高まり、NYダウ平均が200ドル超下落する中、92円を割り込んだ。
17日	16日に行われたウクライナの住民投票は、ロシア編入への賛成が圧倒的多数を占めた。これを受けて朝方こそ91.10円台まで弱含む場面が見られたが、住民投票は予想通りの結果であり、織り込み済みとの見方から下げ止った。その後、欧州連合(EU)や米国がロシアへの制裁措置を発表したが、高官の渡航禁止や資産凍結などに留まった安心感から欧米株価が大きく反発すると92円台を回復した。
21日	東京市場が休場で薄商いの中、欧州勢の参入とともに円買いが活発化すると90.60円台まで軟化した。ただ、売り一巡後は欧州株の反発につれたほか、加2月消費者物価指数が前月比+0.8%、前年比+1.1%といずれも予想(+0.6%、+1.0%)を上回った事から91.50円台付近まで上昇した。
28日	「中国の李克強首が(26日に)、経済の急激な変化に対応するために必要な政策手段を持っており、支援策を段階的に講じるとの見解を示した」と報じられた事を好感して、原油などの国際商品価格やNYダウ平均が上昇すると93円台を回復した。

CAD / JPY

今月のポイント

3月のカナダ/円相場は90.643円～94.074円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(カナダドル高・円安)となった。カナダ中銀のハト派色が後退したと受け止められた事などから6日に約2カ月ぶりに94.00円台まで上昇したが、中国経済の失速やウクライナ情勢に対する懸念などから19日には90.60円台まで軟化した。しかし、下旬にかけては93.80円台まで反発するなど、最終的には上昇して3月の取引を終えた。投資家のリスク許容度が拡大したと言い難い中ではあったが、四半期末が近づくにつれてポジション調整的なカナダドルの買戻しが入ったと見られる。

4月のカナダ/円は反発の持続力を探る展開となりそうだ。中国景気やウクライナ情勢についての懸念はくすぶり続けると見られるが、市場は徐々に関心を失いつつあるようだ。あるいは、3月末にはNYダウが再び史上最高値の更新を視野に入れた事などに鑑みると、先行きについて楽観的な見方が優勢となっているのかもしれない。市場のムードはカナダ/円が上昇しやすいリスク・オンに傾いていると見られ、4月に入りこした流れが本格化するかが焦点となる。そのカギを握るのは、世界景気のけん引役とされる米国と中国の景気動向だろう。米国の雇用統計や中国の製造業PMIなど月次の主要経済指標に加え、今月は両国で1-3月期の国内総生産(GDP)も発表されるため要注目だ。

カナダ/円は、200日移動平均が位置する94円台半ばから、年初来高値(1/2)と年初来安値(3/19)の半値戻しにあたる95.00円付近がチャート上のポイントとなりそうだ。上抜けられれば61.8%戻しの水準に当たる96円付近まで上値余地が拡大する事になる。(神田)

(予想レンジ:91.500～96.200円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(火)	日銀短観	4/16(水)	3月中国鉱工業生産
	3月中国製造業PMI		1-3月期中国GDP
4/4(金)	3月加雇用統計		加中銀政策金利発表
	3月米雇用統計	4/17(木)	3月加消費者物価指数
4/8(火)	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	4/21(月)	3月日本通関ベース貿易収支
	2月日本経常収支・貿易収支	4/23(水)	2月加小売売上高
	3月加住宅着工件数	4/25(金)	3月日本消費者物価指数
4/10(木)	3月中国貿易収支	4/30(水)	日銀金融政策決定会合
	2月加新築住宅価格指数		2月加GDP
4/11(金)	3月中国消費者物価指数		第1四半期米GDP・速報値
4/14(月)	3月米小売売上高		米FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。